

JTSU結成5周年！

「全組合員参加の職場活動」と「地域共生運動」で切り拓いた地平を全体で確認し、
連帯する仲間と共に、未来へつなぐJTSU運動を創り上げよう！

私たち日本輸送サービス労働組合連合会(以下、JTSU)は、6月15日、赤羽会館において「第8回定期大会」を開催し、JRメカトロサービス労働組合の加盟を承認し、結成から5周年を迎え、未来へ向けて歩むべき運動方針を満場一致で確認しました。JTSUは2020年2月、JR東日本輸送サービス労働組合とジェイアールバス関東労働組合の2単組で結成しましたが、現在は西武バスユニオンとJRメカトロサービス労働組合を合わせた4単組となりました。さらには、JR東日本グループ内で働く個人加盟の仲間も多く結集しています。

すべての組合員・ご家族の皆さん！ JTSUに連帯して頂いている皆さん！

JTSU結成から5周年、個人加盟の組合員を含めた全組合員参加の職場活動で積み重ねた到達点と、JTSU議員懇談会と「日本社会連帯機構」「ワーカーズコープ」「SHOIN」をはじめとする地域の皆さんとの地域共生運動で切り拓いた地平を全体で確認し、10年先の未来を見据えて、JTSU運動を堂々と創り上げることを宣言します。

JRメカトロサービス労働組合は結成以降、7件の申し入れを提出し、団体交渉を行うことで、期末手当をはじめとした待遇改善を実現してきました。この賃金・待遇改善と職場改善を通して組織強化・拡大は着実に進んでいます。経団連が「労使自治を軸とした労働法に関する提言」を示し、労働組合を基本とする「労使自治」から大きく転換を図ろうとする中で、労働組合の存在意義を発揮し、労働三権を活用し運動をつくり出す貴重な教訓を得ました。私たちは「職場活動」を基本とするJTSU運動を通して、労働組合らしく本質的に、原則的に、労働法制を守り抜く立場を貫いていくことを明らかにします。

福知山線・羽越本線脱線転覆事故から20年を迎えました。新幹線の列車分離やパンタグラフの相次ぐ損傷等、各系統で発生している事故を見ると明らかに「組織事故」であり、“公共交通・輸送サービス業の危機”と断定せざるを得ません。また、輪軸圧力データの改ざんやモーターの不正点検等により企業ガバナンスと社会的信頼は大きく揺らいでいます。私たちは、それぞれの事故原因と背景を教訓化し、安全・安心感ある輸送サービスを確立していきます。

みどりの窓口の閉鎖凍結や京葉線快速電車の増便等の施策において、職場からの検証運動と地域の声が結合すると、会社施策を見直せるという教訓を掴み取りました。また、常磐緩行線と南武線ワンマン問題においては、会社施策を利用者・乗客と地域に訴え、地域社会へ問題提起を行い、地域社会と課題解決を図る新たなJTSU運動をつくり出してきました。これからも現場が抱える問題点や課題を集約することで、地域社会に求められる駅や輸送サービスのあり方を検討し、職場での検証運動と労働政策づくりを強化していきます。そして、防災士資格を取得している組合員を中心に、“組合員が住んで働く地域における地域共生”と“労働組合としての中間共同体”を見据え、「災害ボランティア」登録に向けて組織整備を進めていきます。

私たちJTSUは、結成から5年間、「グリーンジョブ研修フクシマ」「36路線・72区間現地調査行動」を中心に、「ボールdeウォークサークル」等を通じて、地域とのつながりの重要性を実感し、「地域連帯」から「地域共生運動」と積み上げることで、新たな運動へと深度化させてきました。JTSUは、社会問題を解決できる労働組合として地域に根差し、地域に必要とされるJTSU組織と運動をつくり出していきます。

10月15日には「戦後80年 平和・未来フォーラム」を開催します。「平和・未来フォーラム」では「つなぐ」をテーマに掲げて、脅かされる「地方自治」「労使自治」を含めた時代認識を一致させて、「平和観」と「憲法観」を次世代に継承するためにどうすべきかを、みんなで語り合いつくり上げていきます。

加盟4単組の共通課題として、全組合員参加の職場活動を原点に、JTSU議員懇談会と地域社会との連帯を図り、平和な地域共生社会の創造に向けて、JTSU運動をつくり上げ、5年、10年先を見据えた「未来」へつなぐJTSUをつくり上げていきます。

2025年 6月15日
日本輸送サービス労働組合連合会